新型コロナウイルス感染症に係る健康影響（後遺症等）の調査結果

１　目的

県内で新型コロナウイルス感染症に罹患した患者の感染後の症状（いわゆる後遺症）による健康影響や社会的影響の実態を把握するため調査を実施する。

２　結果概要

⑴ 属性情報

回答者の居住地は内陸地域が72％、県北・沿岸地域が26％であった。

⑵ 入院中の状況

酸素投与を受けた患者が8.5％、集中治療を受けた患者が1.4％であった。

⑶ 健康影響（症状）

６ヶ月以上継続した症状として倦怠感、気分の落ち込みと回答した方が11％と最も多く、嗅覚障害（9％）等が続いた。国の調査に比べ、本県では倦怠感は低いが、症状の出現頻度や遷延の状況は全国調査と相関する結果となった。

⑷ 社会的影響

差別と偏見は約７割があったと回答した。

⑸ 気分の落ち込み

CES-D（気持ちの落ち込み度評価）で、約10％に軽度以上のうつ症状を認めた。

３　調査方法等

⑴　調査期間

令和３年11月15日～12月15日

⑵　調査対象者

令和２年７月29日から令和３年３月31日までに新型コロナ確定患者のうち16歳以上の者（計528名）（解析の一部は上記患者のうち一部のみ分析）

⑶　調査方法

積極的疫学調査票等から情報を抽出し、自記式質問紙票を郵送。調査に同意があった方が無記名で回答し、令和3年12月15日までに返信のあったデータを分析